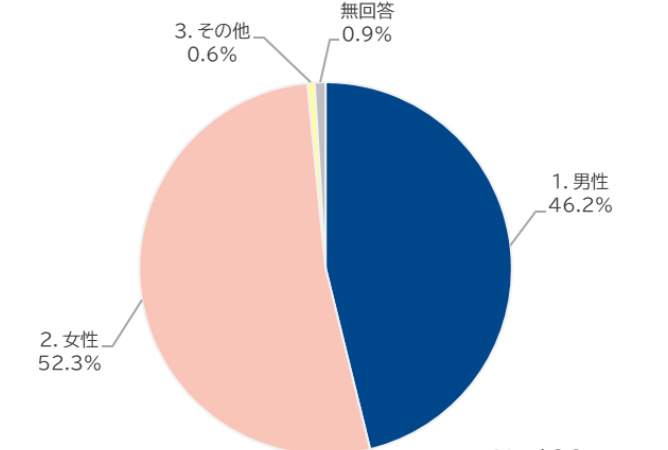
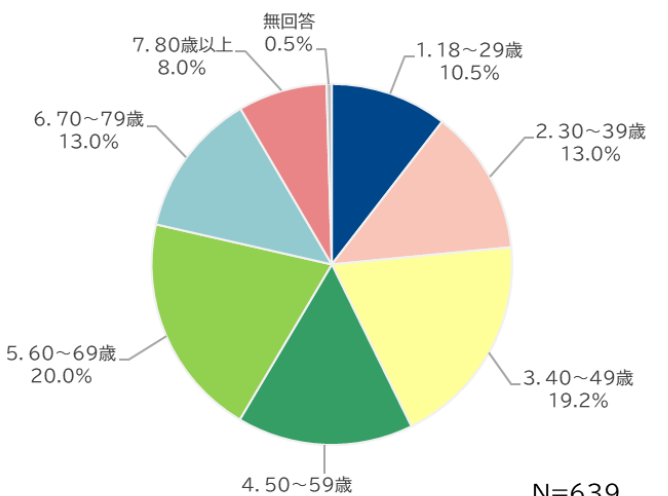
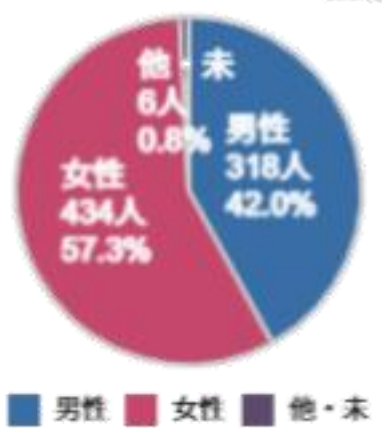
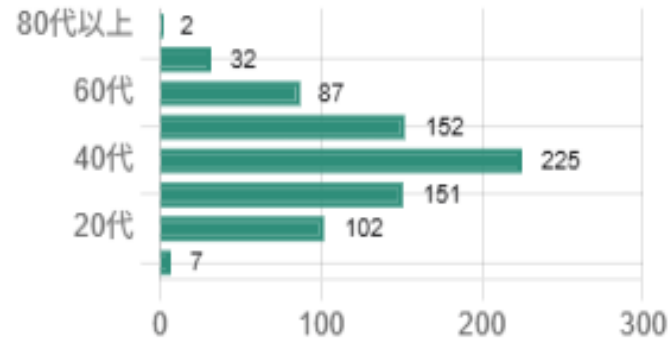
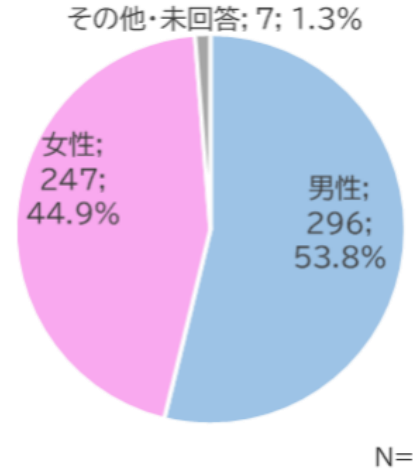
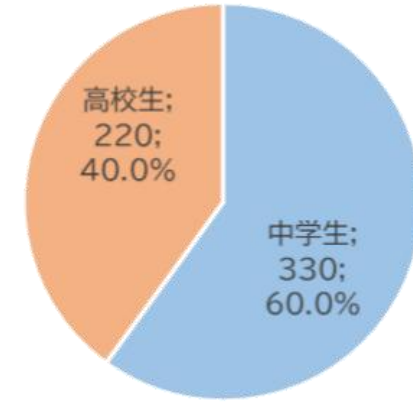


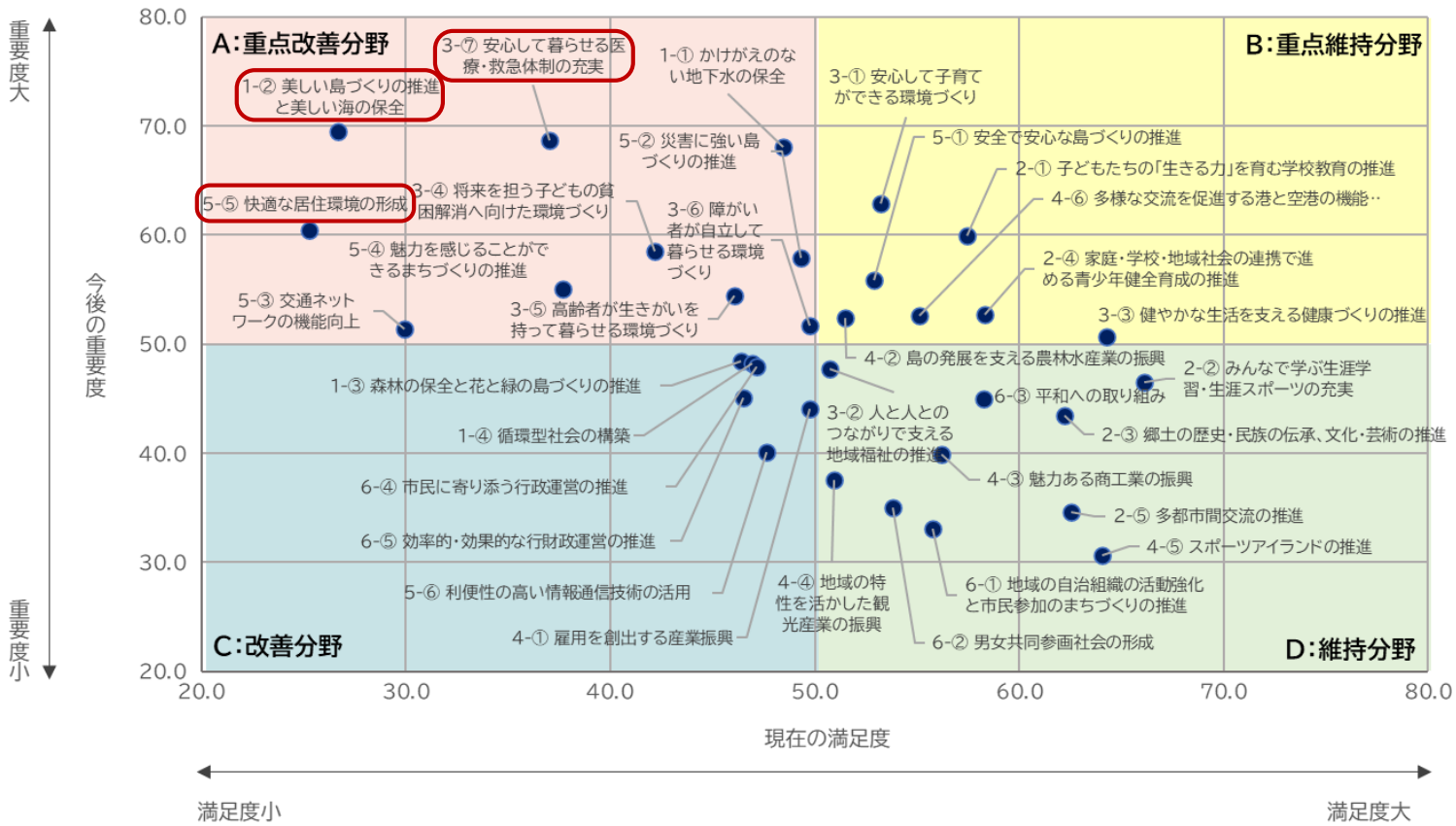
宮古島市 市民向け各種アンケート調査報告書 概要版

調査	市民アンケート	Well-Beingアンケート	中高生Well-Beingアンケート
調査目的	- 市民の現総合計画の施策に対する満足度・重要度の把握 - 結婚出産子育て及び将来のまちづくりの要望の把握	市民の地域幸福度(Well-Being)の把握	市内中高生の地域幸福度(Well-Being)指標の把握
調査期間	2025(令和7)年12月1日(月)～21日(日)		
調査方法	配布：郵送 ／ 回収：郵送及びWEB回答	配布：郵送 ／ 回収：WEB回答	配布：学校での実施(QRコード配布) ／ 回収：WEB回答
広報方法	無作為抽出した市民3,000人に調査票を郵送	- 無作為抽出した市民3,000人にチラシを郵送 - チラシを市役所等の施設内に掲示 - 市公式ホームページ、広報みやこじま及びフリーペーパーに掲載	市内の中学校・高等学校にチラシを配布
調査対象	満18歳以上の市民3,000人を無作為抽出(2026年2月現在 総人口55,359人)	満18歳以上の市民	市内中学校3年生 約560人 市内高等学校3年生 約440人
主な設問	- 宮古島市の施策に対する満足度・重要度 - 宮古島市における働きやすさ - 結婚や出産に関する考え - 宮古島市のこれからのまちづくりに対する意見	- 幸福度及び生活満足度 - 生活環境・地域の人間関係・自分らしい生き方に関する満足度	
有効回収数	639件（郵送回収395件・WEB回収244件）	758件	550件
回答者の属性 (性別・年代)	性別  年代 	性別  年代 	性別  年代 

I. 市民アンケートの調査結果

I-1. 宮古島市が取り組んでいる施策に対する満足度・重要度（本編 p.12～）

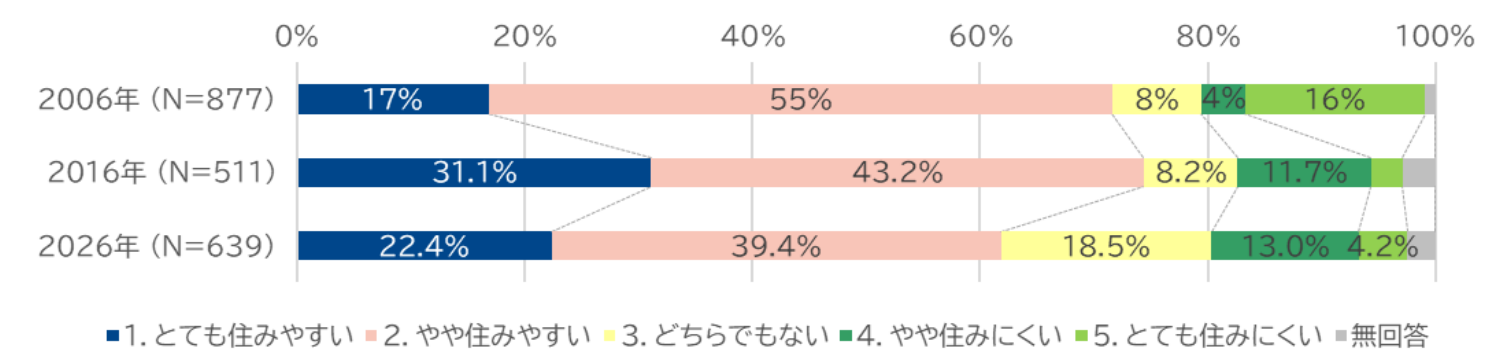
現行の「第2次宮古島市総合計画(後期基本計画)」では、6つの基本目標と33の施策を設定しています。現行計画の各施策を評価・検証する上で参考とするため、33の施策に関して、「現在の満足度」と「今後の重要度」を確認しました。



図内左上の「**A: 重点改善分野**」は、**市民にとって重要度は高いが満足度が低い施策**のため、今後施策の優先的な見直しが必要と考えられます。特に、図の左上に分布している**環境保全・居住環境・医療体制**などは注目に値します。

I-2. 宮古島市の住みやすさ（本編 p.39～）

宮古島市の住みやすさについて、**肯定的な回答をした市民の割合は61.8%と大多数**を占める結果となりました。しかし、10,20年前の結果と比較すると、**その回答割合は10%程度減少**していることがわかります。



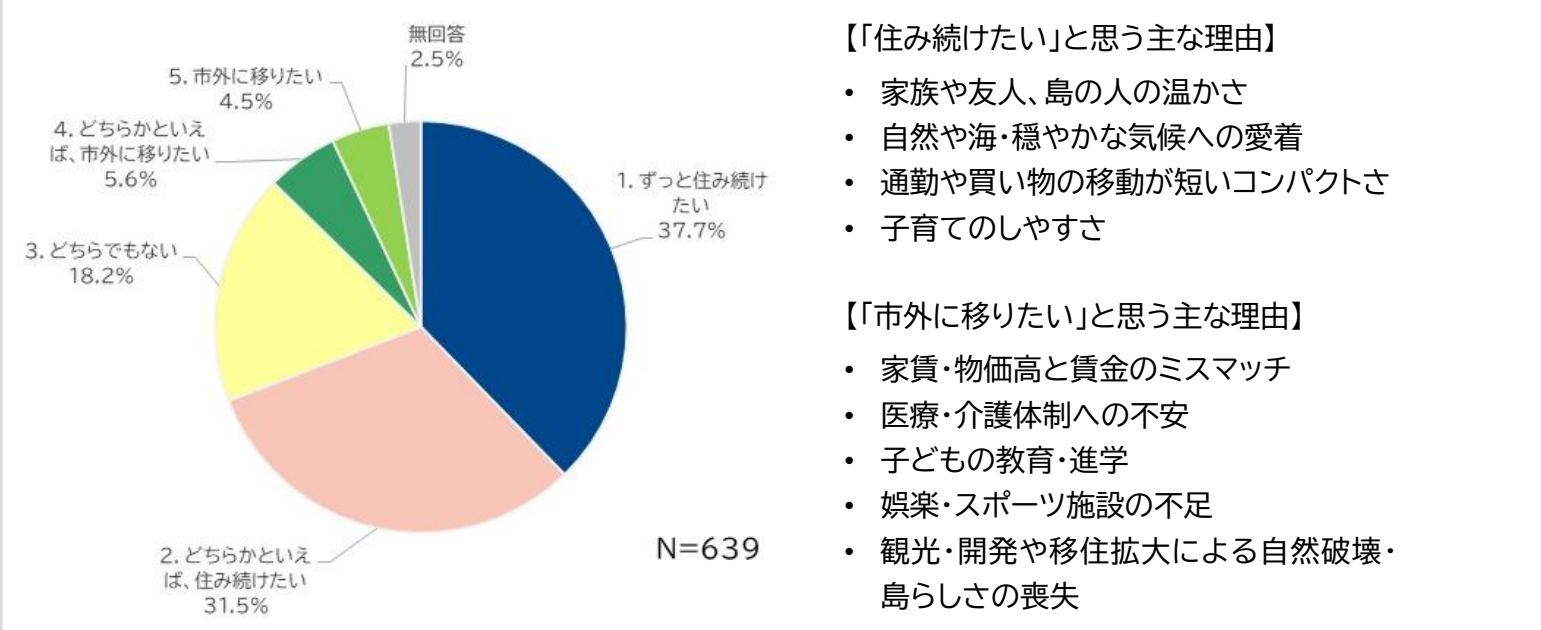
- 【「住みやすい」と思う主な理由】

 - 生活利便施設が集積する島のコンパクトさ
 - 温暖な気候、美しい自然や海
 - 島民同士の温かい人間関係
 - 子育てのしやすさ、治安の良さ
- 【「住みにくい」と思う主な理由】

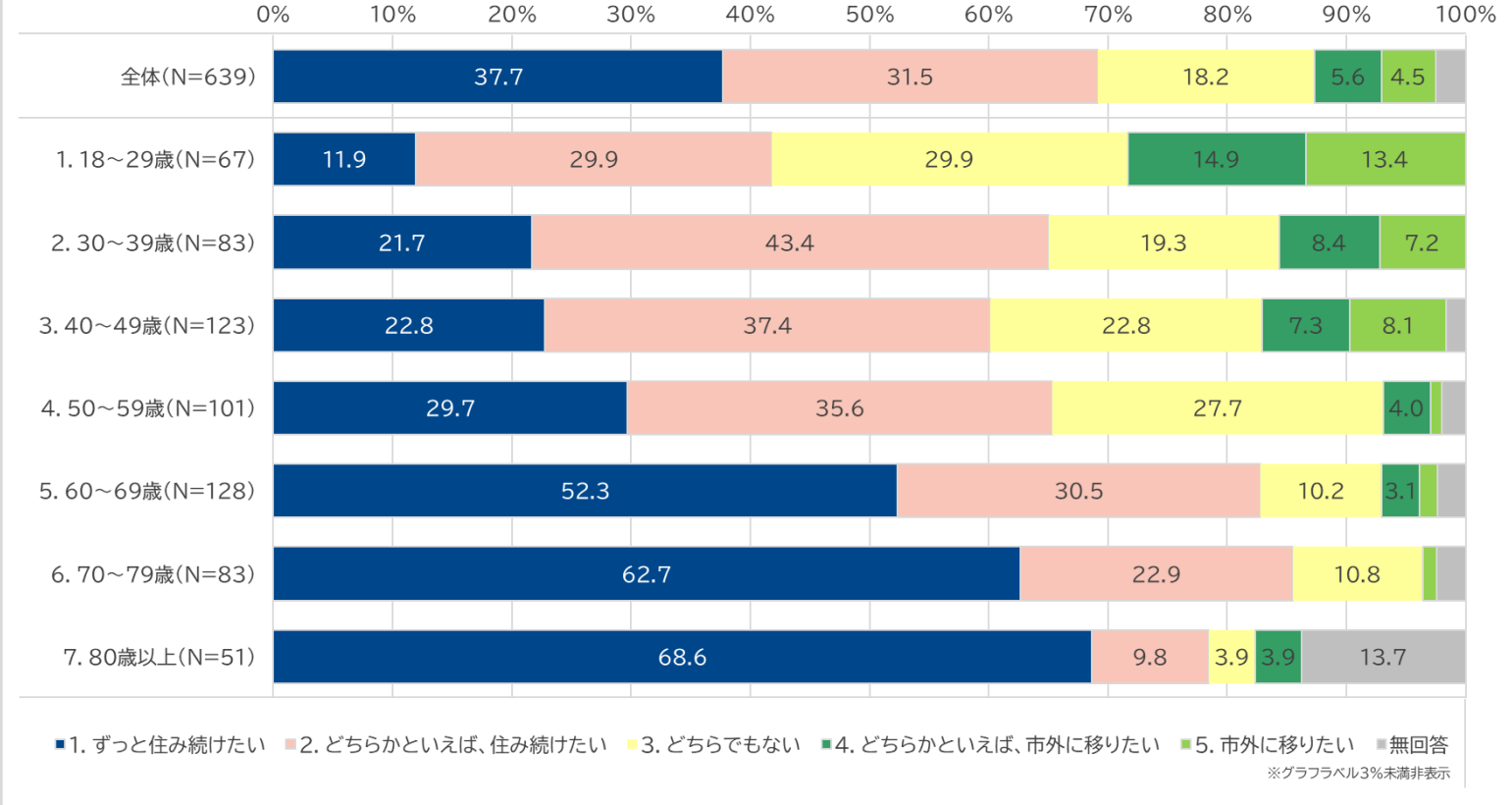
 - 家賃・物価高騰、賃金水準の低さ
 - 観光業や移住者の増加による地域文化の変化
 - 観光客のマナーの悪さ、オーバーツーリズム
 - 公共交通・医療体制・娯楽施設・子どもの遊び場の不足

I-3. これからも宮古島市に住み続けたいか（本編 p.42～）

宮古島市における将来の定住意向について、**肯定的な回答をした市民の割合は69.2%**と、現在の住みやすさ以上に高い割合を占める結果となりました。



しかし、年代別の傾向を見ると、**18～29歳の肯定的な回答割合は41.8%**と最も低く、**若年層の居住意向を高めるための対策**が必要であることがうかがえます。



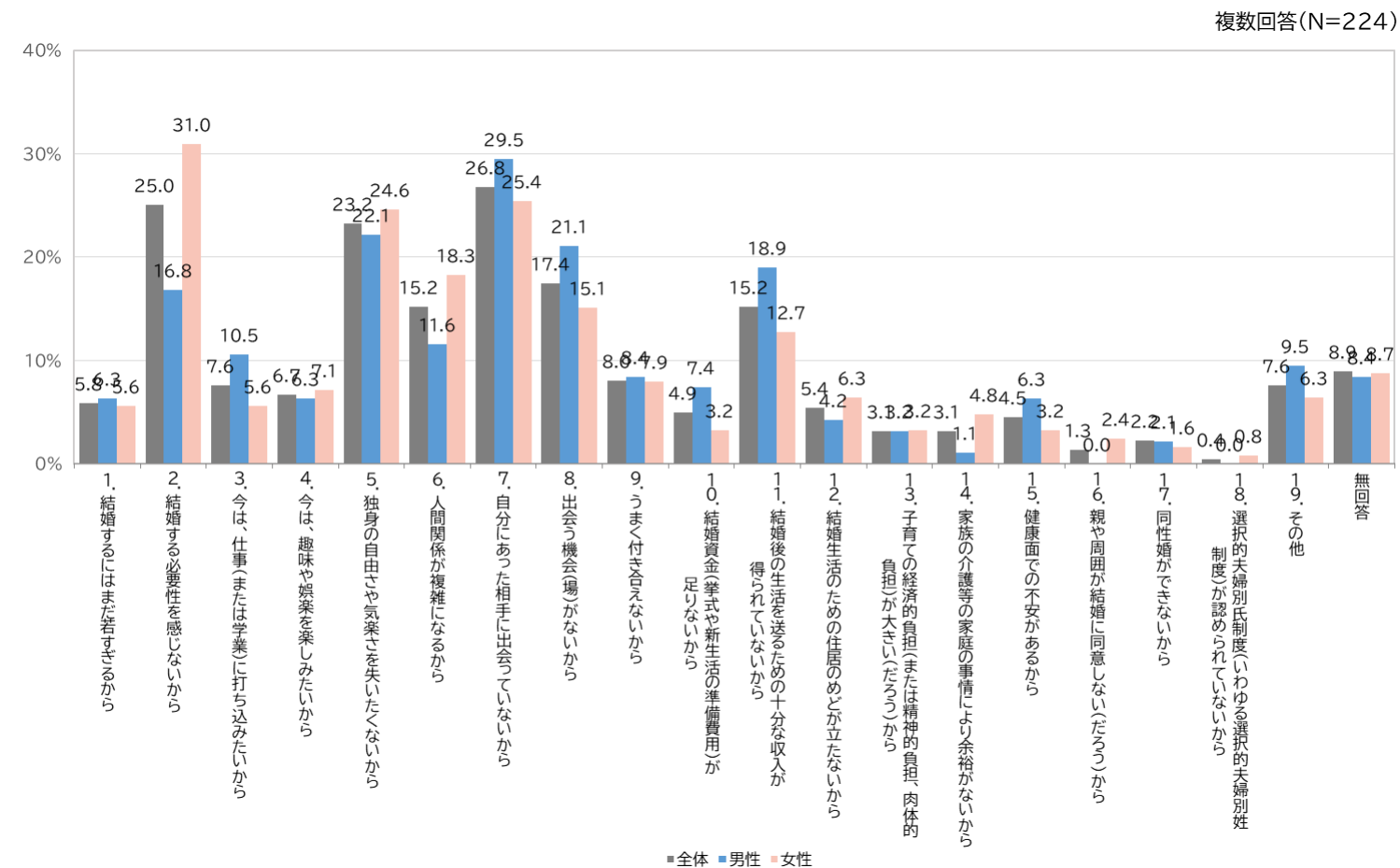
- 

宮古島市の住みやすさに関しては、市民から一定の評価を受けている

一方、観光地化などの**近年の急激な変化を背景とした弱み**も明らかに

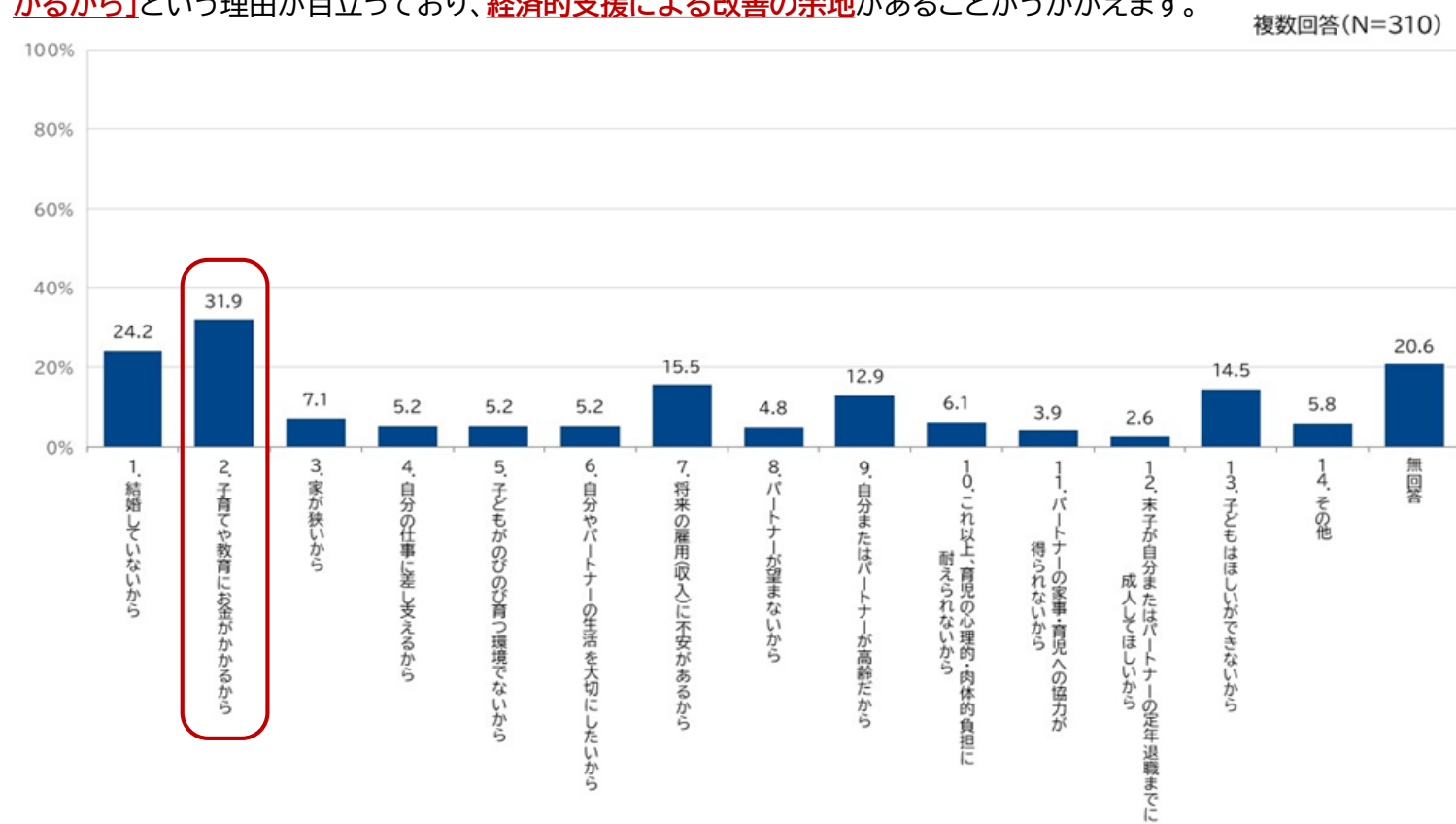
I-4. 結婚に関する考え方（結婚をしていない・しない理由）（本編 p.30～）

未婚の方を対象に「結婚していない・しない理由」を聞いたところ、特定の理由に大きな偏りが見られず、**結婚に関する多様な考え方がある**ことがうかがえました。**男女別で見ても結婚観に違い**が見られます。



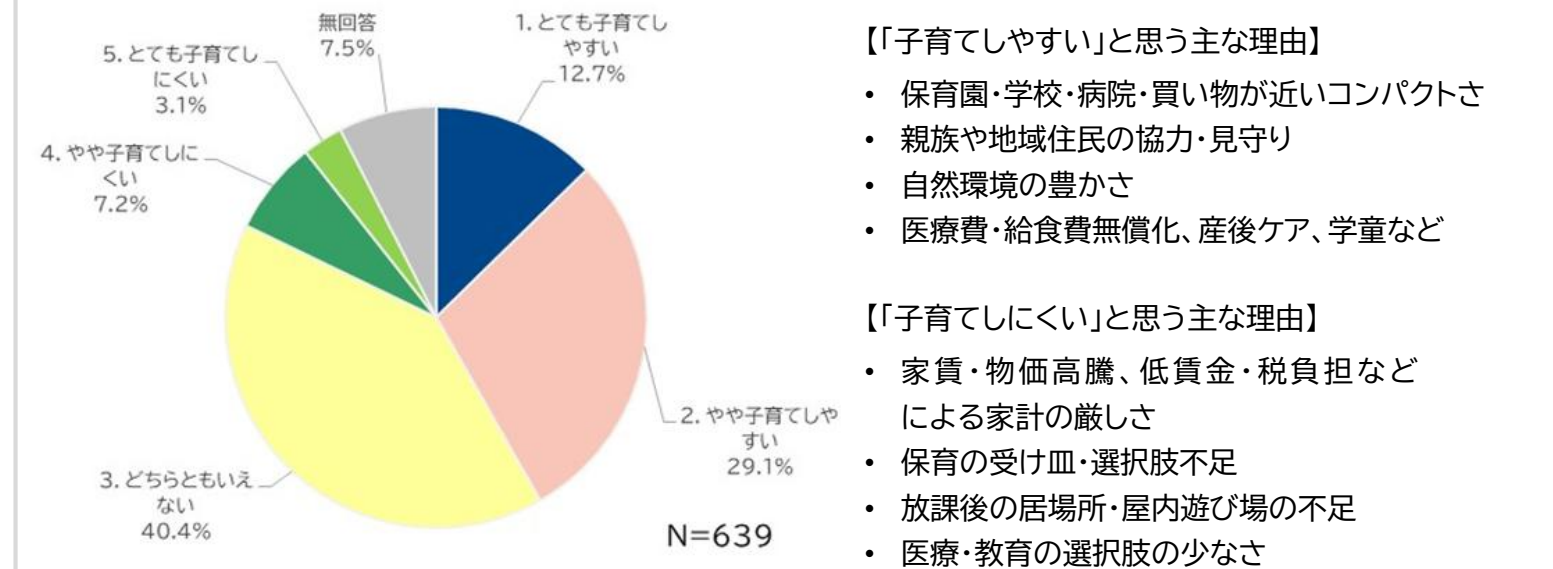
I-5. 出産に関する考え方（子どもの数が理想より少ない理由）（本編 p.34～）

子どもの数が理想より少ない方を対象にその理由を聞いたところ、どの年代においても「**子育てや教育にお金がかかるから**」という理由が目立っており、**経済的支援による改善の余地**があることがうかがえます。



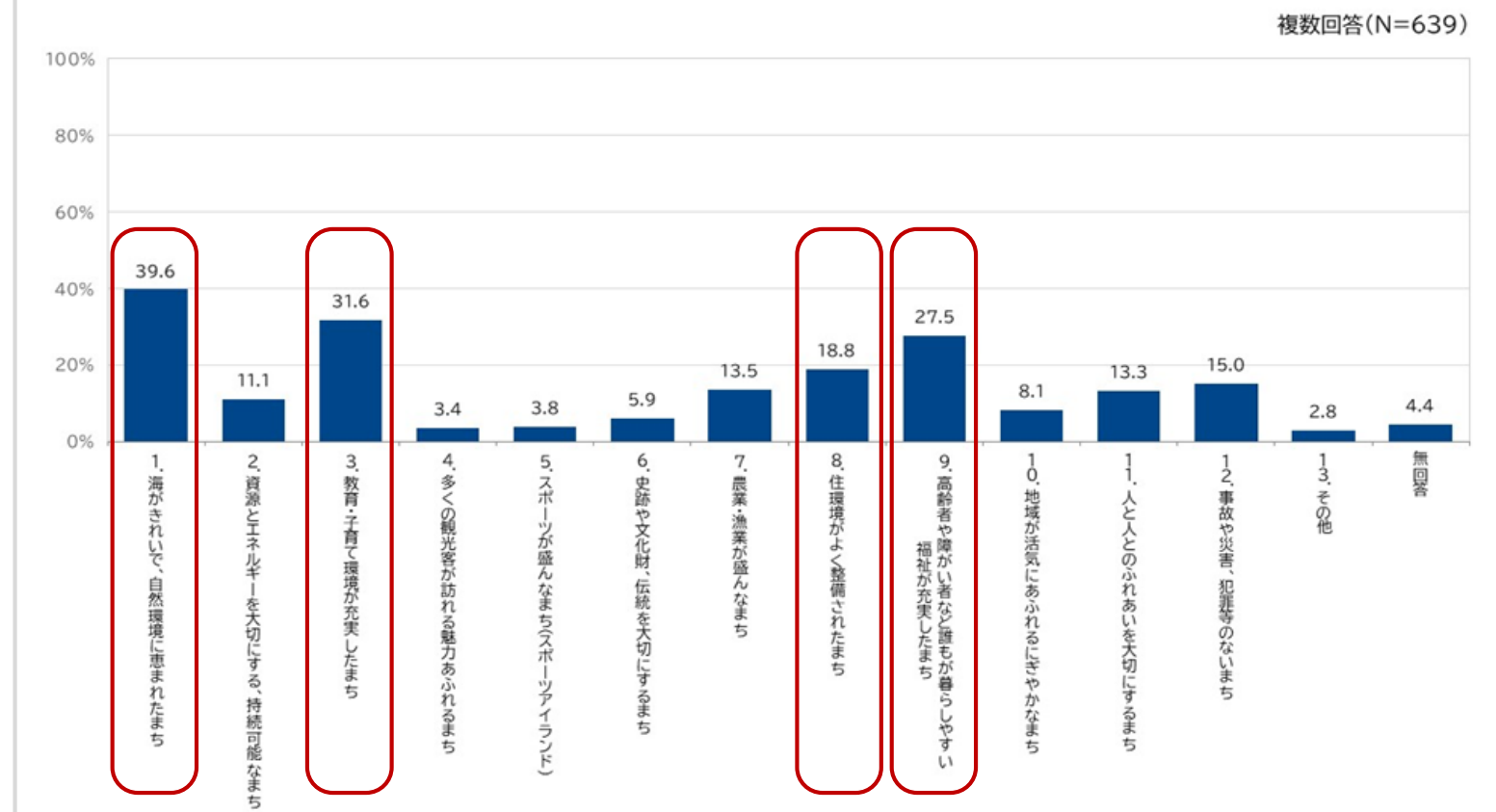
I-6. 宮古島市の子育てのしやすさ（本編 p.36）

宮古島市における子育てのしやすさについて、**肯定的な回答をした市民の割合は41.8%**である一方、**中立的な回答も同程度の40.4%**となっています。



I-7. 宮古島市が目指すべきまちの姿（本編 p.46）

宮古島市が目指すべきまちの姿として、「**海がきれいで、自然環境に恵まれたまち**」が最も多く、次いで「**教育・子育て環境が充実したまち**」、「**高齢者や障がい者など誰もが暮らしやすい福祉が充実したまち**」が続く結果となりました。

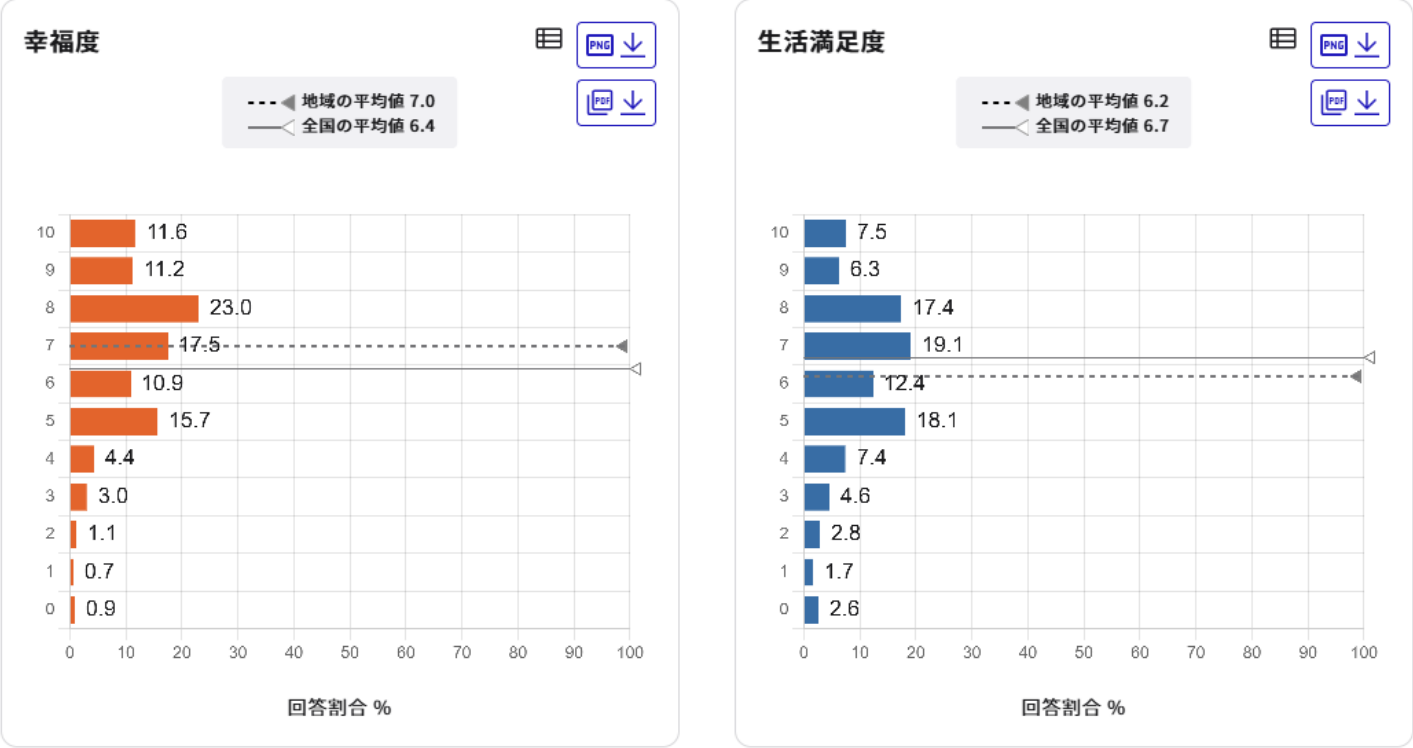


- ・ 出産・子育て状況については、**経済的支援による改善の余地**が見込まれる
- ・ 将来のまちに求める要素は、**自然環境、教育・子育て、福祉、住環境**が中心

II. Well-Beingアンケートの調査結果

II-1. 幸福度と生活満足度（本編 p.59）

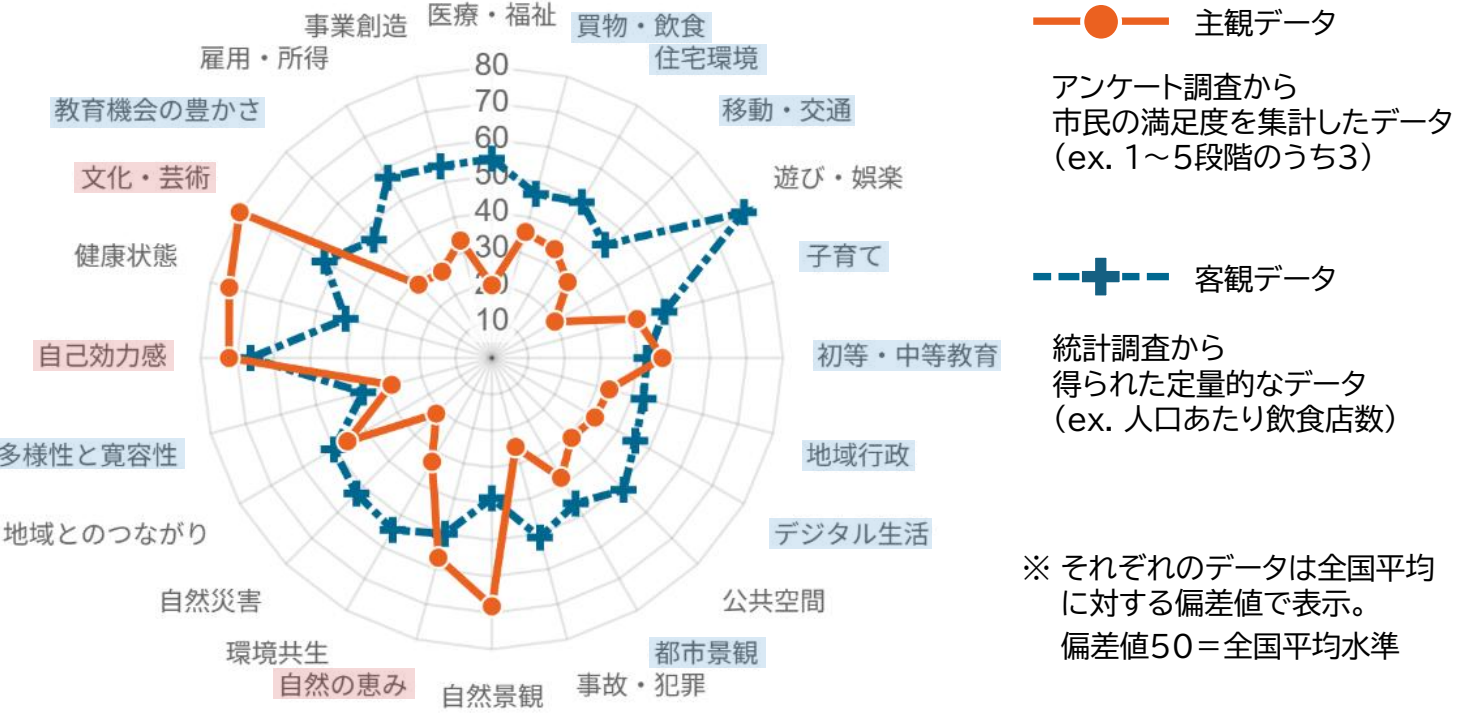
幸福度の平均値は0～10の段階のうち**7.0**であり、全国平均6.4と比較すると高い値と言えます。
生活満足度の平均値は0～10の段階のうち**6.2**であり、全国平均6.7と比較すると、やや低い値と言えます。



II-2. 24カテゴリー別の結果（本編 p.60～）

Well-Beingの24カテゴリーについて、主観・客観データともに値の高い分野は宮古島の強み、主観・客観データともに値の低い分野は宮古島の弱みと解釈されます。

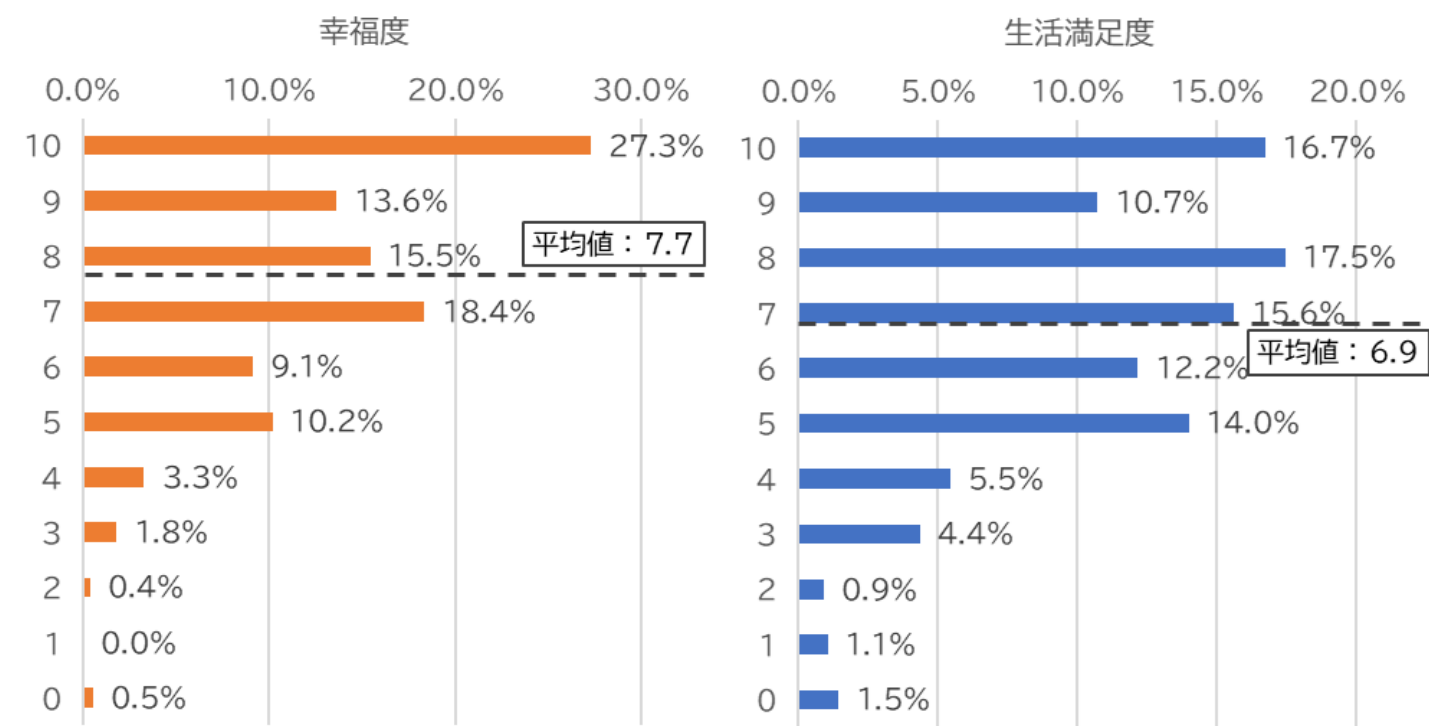
強みは「自己効力感」「文化・芸術」「自然の恵み」が挙げられる一方、**弱みは「初等・中等教育」「子育て」「買物・飲食」「住宅環境」「移動・交通」「多様性と寛容性」**などが該当しています。



III. 中高生Well-Beingアンケートの調査結果

III-1. 幸福度と生活満足度（本編 p.68）

幸福度は**7.7**であり、満18歳以上の結果である7.0を0.7ポイント上回る結果となりました。
また生活満足度は**6.9**であり、満18歳以上の結果である6.2を0.7ポイント差で大きく上回る結果となりました。



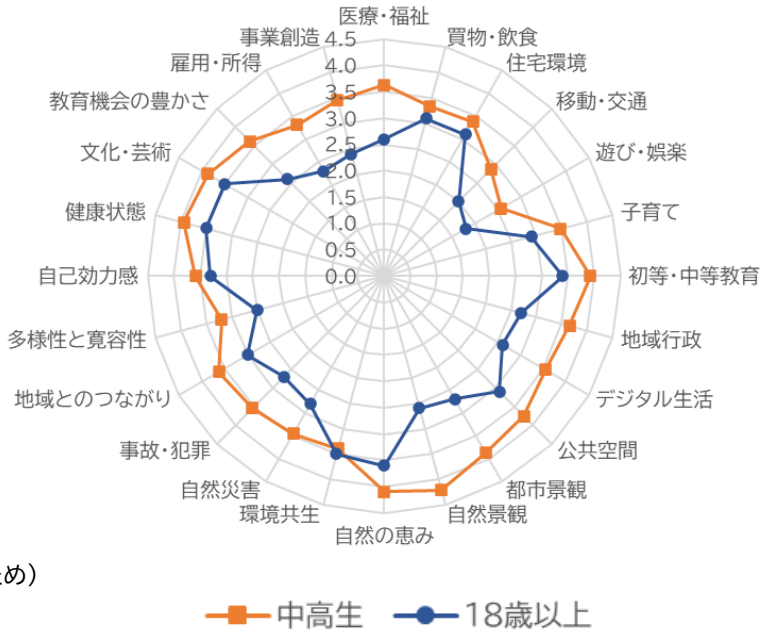
III-2. 24カテゴリー別の結果（満18歳以上との結果比較）（本編 p.69～）

「環境共生」以外のすべてのカテゴリーについて、満18歳以上の結果を上回る満足度が記録されました。

宮古島の強み・弱みについては満18歳以上の結果とおおむね同じであり、「移動・交通」「遊び・娯楽」「多様性と寛容性」などで比較的低い値が示されています。

「自然景観」では、満18歳以上は2.6に対し、中高生は4.2と乖離が見られ、**中高生は、宮古島の自然景観を自慢できると比較的強く評価している可能性**が指摘されます。

※ それぞれのデータは偏差値化せずに表示。
(全国的に中高生を対象としたWell-Beingアンケートの実施事例は少なく、全国平均との比較は必ずしも適当ではないため)



- アンケートと統計データの両面から見た強み・弱みの把握が可能に
- 中高生は満18歳以上と比べて幸福度・満足度が高い傾向

(1) 市民の声(アンケート・Well-Being・ワークショップ・関係団体ヒアリング)

① 市民アンケートの結果

宮古島市における将来の定住意向について、肯定的な回答をした市民の割合は 69.2%と高い割合を占める結果となりました。

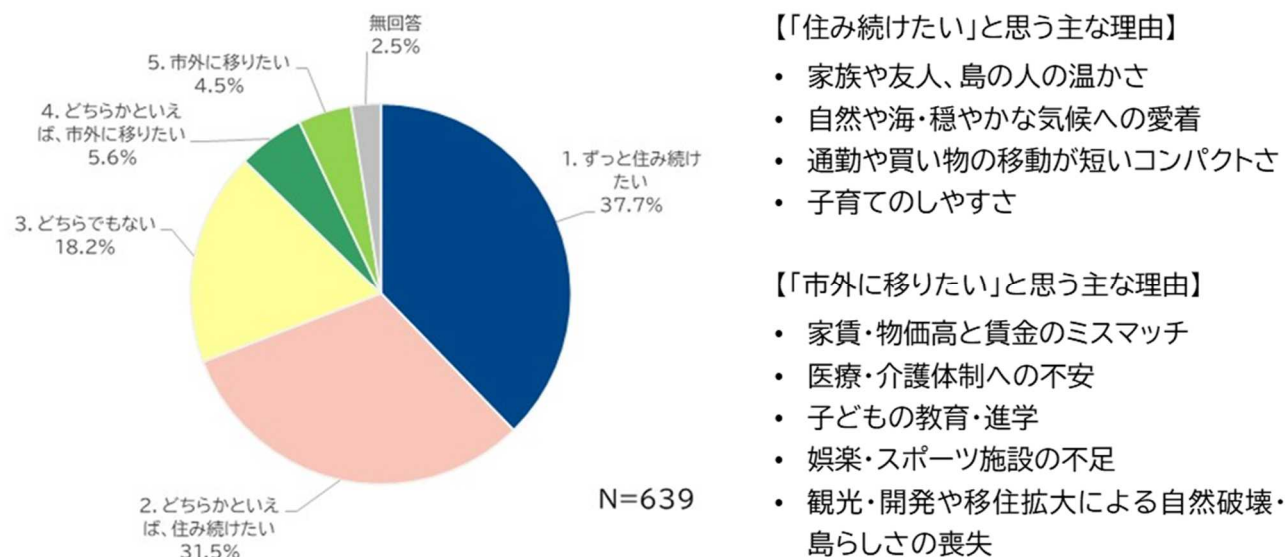


図 将来の定住意向とその理由

しかし、年代別の傾向を見ると、18～29歳の肯定的な回答割合は41.8%と最も低く、若年層の居住意向を高めるための対策が必要であることがうかがえます。

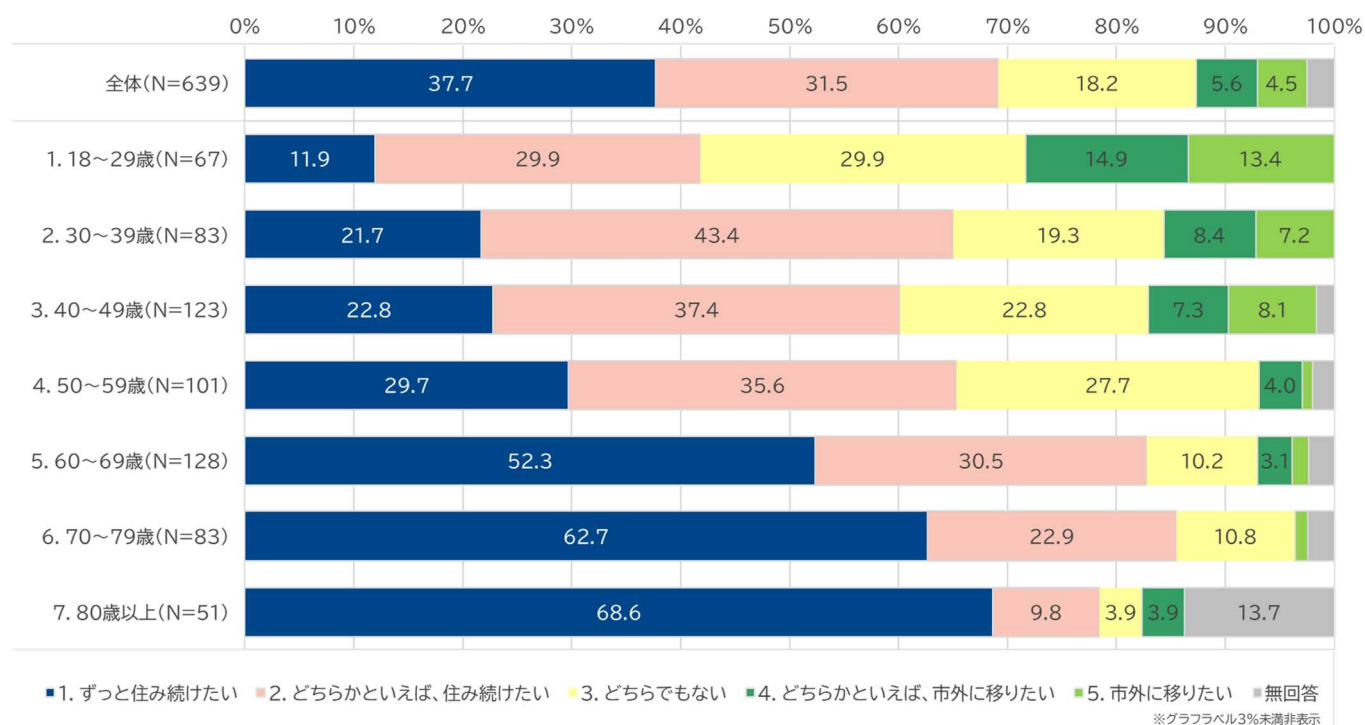


図 年代別の将来の定住意向

宮古島市が目指すべきまちの姿として「海がきれいで、自然環境に恵まれたまち」が最も多く、次いで「教育・子育て環境が充実したまち」「高齢者や障がい者など誰もが暮らしやすい福祉が充実したまち」が続く結果となりました。また、「住環境がよく整備されたまち」は、特に40代以下の市民から多く選ばれる結果となっています。

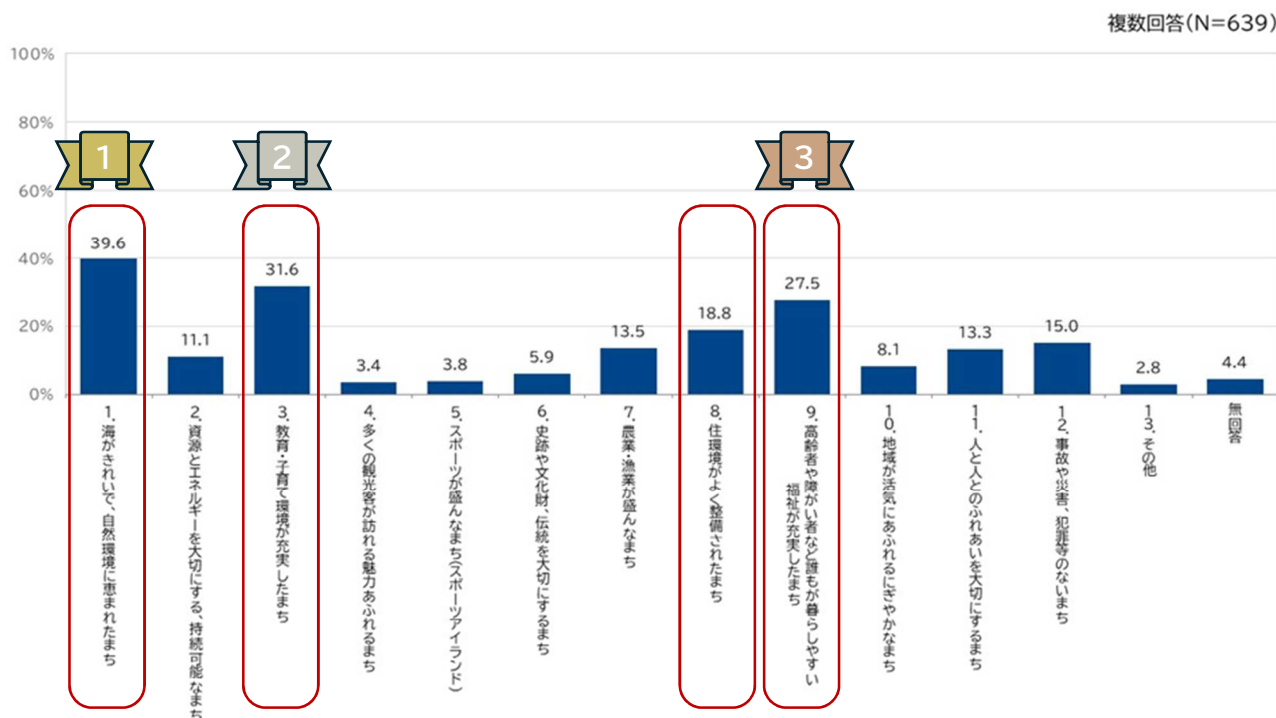


図 宮古島市が目指すべきまちの姿

宮古島市への愛着について、肯定的な回答をした高校生の割合は78.2%と非常に高い割合を示した一方で、将来の居住意向については、肯定的な回答は 40.6%にとどまり、市内の高校生は、宮古島市への愛着は高い一方で将来の市内居住意向は比較的低いことが明らかになりました。

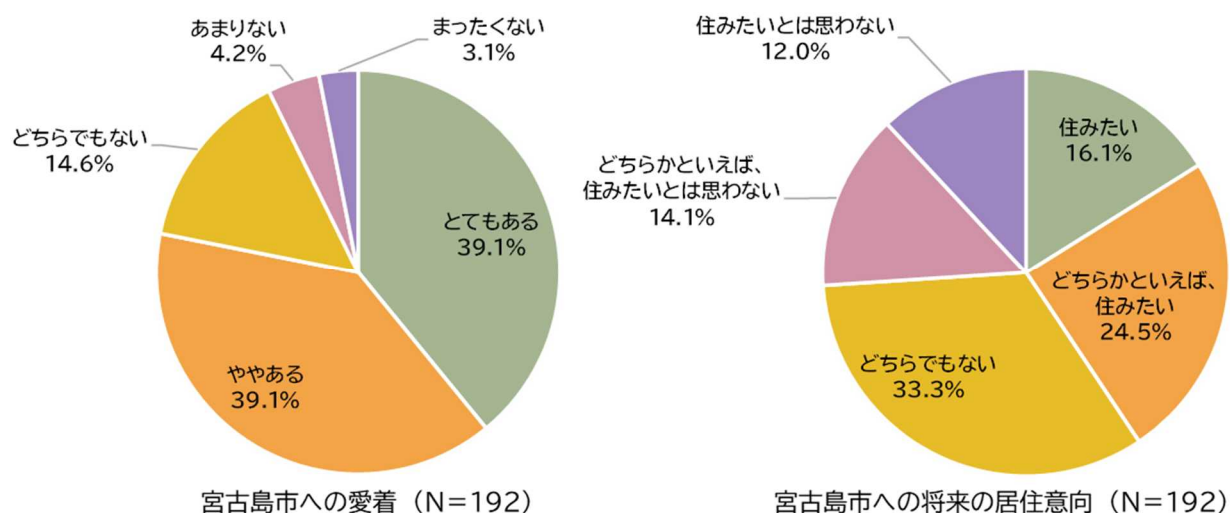


図 宮古島市への愛着と将来の居住意向

② Well-Being 指標アンケートの結果

宮古島市の Well-Being の現況を示す、Well-Being 指標の数値を見ていきます。市民の幸福度と5年度の幸福度は高い値を示した一方、生活満足度や町内の幸福度などは全国平均をやや下回る結果となりました。

また、中学生・高校生は 18 歳以上の結果・全国平均を大きく上回っており、日々の生活に幸福や満足をより実感していることがわかります。

表 宮古島市の Well-Being 指標

	18歳以上	中学生・高校生	全国平均
幸福度(10段階評価)	7.0 ↑	7.7 ↑	6.4
生活満足度(10段階評価)	6.2 ↓	6.9 ↑	6.7
5年度の幸福度(10段階評価)	7.0 ↑	8.0 ↑	6.3
居住地域の人々の幸福度(10段階評価)	6.1 ↓	7.4 ↑	6.3

また、24因子ごとに主観指標・客観指標の結果を見ると、「自己効力感」「文化・芸術」「自然の恵み」が主観・客観指標ともに全国平均を上回っており、これらは宮古島市の強みと考えられます。一方で、「初等・中等教育」「子育て」「移動・交通」「教育機会の豊かさ」「多様性と寛容性」などは主観・客観指標ともに全国平均を下回っており、これらは宮古島市の弱みと考えられます。

図 24因子ごとの Well-Being 指標に示すとおり、客観指標を横軸、主観指標を縦軸として24因子をプロットした散布図に、幸福度や生活満足度との相関性の結果を重ね合わせることで、宮古島市における市民の Well-Being 向上に寄与する因子を特定することが可能となります。

※Well-Being 指標の24因子の数値は、「全国偏差値」によって示されます。「全国偏差値」とは、全国平均に対する、値の相対的な高さ・低さを示します。偏差値 50 は全国平均並み、50 以上は全国平均以上、50 以下は全国平均以下となります。

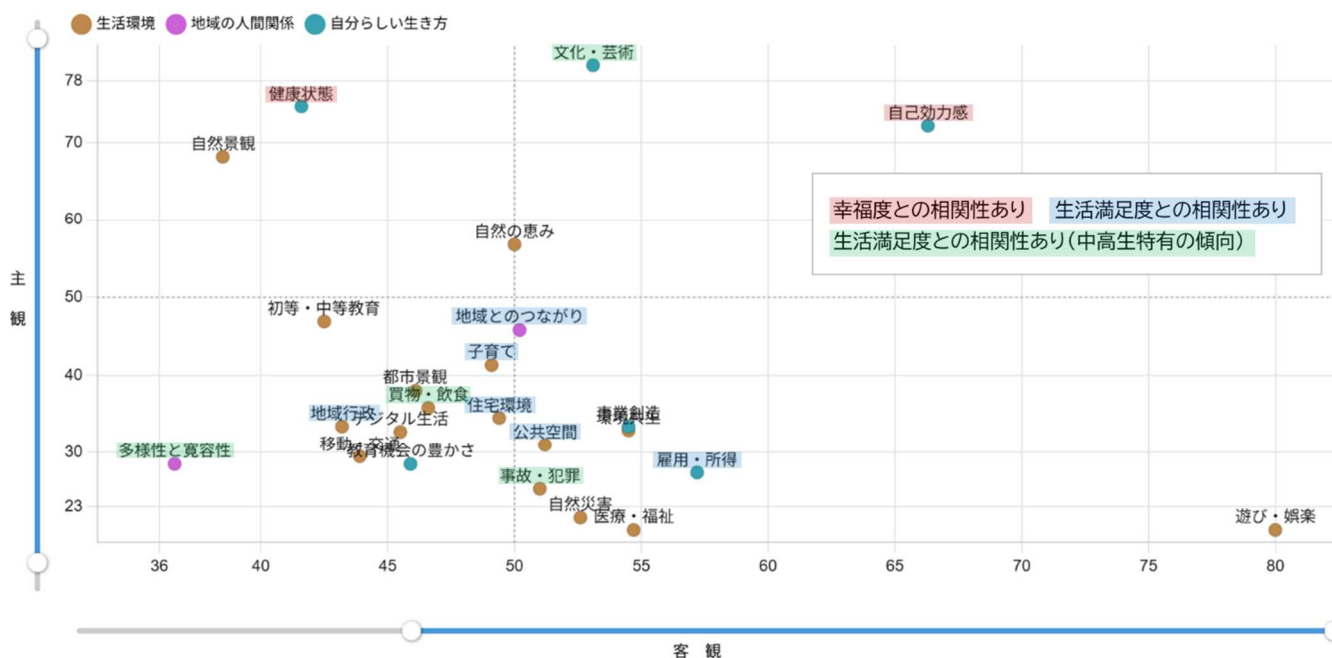


図 24因子ごとの Well-Being 指標

③ ワークショップ

宮古島市民および宮古島市役所職員を対象に、「Well-Being ワークショップ」を実施し、Well-Being アンケートの結果を参考にしながら、10 年後の宮古島市のあるべき将来像と、そのために必要な Well-Being の重要因子を考えていただきました。市民ワークショップでは 6 グループ、職員ワークショップでは 5 グループの計 11 グループが

参加し、それぞれ結果を共有しました。

主に子育てや地域とのつながり、雇用・所得などに注目し、「地域住民の暮らし」をいかに満足高いものにしていくかという観点から議論が交わされました。

また、宮古島市内の中学生・高校生を対象に、「中学生・高校生 島づくりワークショップ」を実施し、高校生進路アンケート調査の結果を参考にしながら、市民が「幸せ」と感じられるための取組や将来像について考えていただきました。計6グループが参加し、それぞれ結果を共有しました。

主に、公共交通機関や生活利便・娯楽施設の不足を課題として認識されるとともに、強みである自然環境を保全する観点が多く得られました。具体的な取組としては、自然保全のために「面白いゴミ箱を導入する」、また伝統文化への理解拡大のため「伝統工芸品を配る」など、中学生・高校生ならではのユニークなアイデアも得られました。

④ 関係団体ヒアリング

宮古島市内の7団体に対し、ヒアリング調査を行い、各施策分野における課題認識や改善策・アイデア等のご意見をうかがいました。

表 関係団体ヒアリングの結果

分野	課題への言及	まちづくりへの意見・アイデア
文化	・慢性的な人材不足 ・方言の話者の減少 ・文化への関心の低さ ・限定的な事務所占有スペース ・市民文化は「一部の人だけのもの」という認識	・マネタイズできない市民文化への理解 ・市の縦割り行政とセクショナリズムの解消
観光	・人材不足 ・観光ニーズの多様化 ・国家資格の取得 ・専門的な人材育成の難しさ ・補助金採択の難しさ ・地元事業者に利益がもたらされない構造	・公園・トイレなどの改修費用 ・地元事業者を巻き込んだ観光ツアーの企画 ・地域に根差した暮らしを活用した観光のあり方 ・災害時の情報発信・受入体制 ・連携強化と情報共有・円滑な調整の仕組みづくり ・定期的な連絡会・オンラインツール導入
福祉	・島外研修の機会が限定的 ・若年層への地域福祉活動の広報周知の難しさ ・受託事業間での人件費のばらつき ・会費・募金額の減少 ・支所の老朽化 ・住民の質の変化に伴う地域のつながりの希薄化 ・「顔の見えない近隣」	・民生委員の担い手不足解消 ・平良青年会を起点とした新たなコミュニティ構築 ・関係機関の担当者との関係性構築による相互連携支援 ・総合福祉センターの創設
子育て	・人材が地域に根付く仕組みづくり ・中長期投資がしづらい年度単位の予算 ・施設や事務作業のDX化・ICT化 ・長期的な人材確保の難しさ ・人材の島外流出 ・園児に対する医療体制の不備	・子どもがふらっと立ち寄れる場 ・地域資源を活用した子どもたちの体験・遊び・学び ・市担当課や関係団体が集まり、情報交換・課題共有される会議体や連絡様式 ・協働的な学び・人材育成の機会 ・長期定着を見据えた制度設計

	・保育人材への物価・家賃高騰に対する補助 ・地域文化の継承への不安 ・楽しみ・レジャーの一環としての地域文化の消費	・入園配分の仕組み ・子どもの主体性を尊重した議論
漁業	・漁業を生業とする組合員の減少 ・アルバイト等の人材不足 ・人材定着の難しさ ・網や廃船の放置 ・海洋レジャー ・市場に卸されない魚介類 ・密漁 ・海洋資源の減少	・大型冷凍施設の導入 ・市や事業者と連携したカキの試験養殖 ・市の縦割り行政の解消 ・人材紹介事業への注力
商工業	・夏まつりの警備・設営・運営負担の集中 ・夏まつりの警備員の人手不足 ・夏まつりにおける車の往来増加による交通安全性の低下 ・観光客の増加に対応できない ・地元住民による食堂・飲食店の減少 ・収益の島外流出	・若者の U ターンの促進 ・運営方法の見直し ・イベントの共同開催 ・地産地消の取組促進 ・地域内経済循環 ・課題共有・情報交換・議論の場